

# 会議議事録

<b>会議名</b>	2023年度 学校関係者評価委員会		<b>学科</b>	
<b>開催日時</b>	令和6年3月6日(水)	18:30~20:00	<b>開催場所</b>	本校 基礎工学実習室
<b>参加者</b>	学校関係者評価委員(50音順) 柿木田健:社会福祉法人広島常光福祉会 理事長 田淵 譲:卒業生代表 前 眞一郎:高等学校代表 宮本 照彦:中央内科クリニック 事業運営本部長		※トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 中川学校長・竹越理事 宅野教務部長・斎木事務課長 各科学科長:吉岡・河地・杉野・内藤	
<b>議題</b>	1 学校関係者評価について(資料1、2、3) 2 2023年度自己評価について(資料4、5) 3 2024年度の重点目標について(資料6、7) 4 意見交換 5 学校関係者評価シートへの記入・提出		資料1~7 学校関係者評価シート スライド資料	

No	議題	内容(決定事項)
1	学校関係者評価について(資料1、2、3)	学校関係者評価の進め方として文部科学省が公表したガイドラインの要約を示し、評価のポイントと学校評価の年間スケジュールを確認した。 2022年度学校関係者評価委員会でもいただいたご意見をもとに2023年度改善計画書を作成し、10月から改善策を実施。3月にまとめた結果を報告した。
2	2023年度自己評価について(資料4、5)	自己点検・評価表(資料4、5)についてポイントを説明した。 スライド資料のとおり。
3	2023年度の重点目標について(資料6、7)	昨年度との変更点を説明した。 スライド資料のとおり。
4	意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートや学生アンケートの回収率をあげることで、日本語学科に対するアンケートの回答方法を検討する必要があるのではないか。 →今までマークシート方式(紙媒体)で行ってきたが、経費削減のためスマホで実施するようになった。やり方が教員側にも周知徹底できていなかったため、次年度以降、教員が学生に丁寧に説明して実施し、回収率や信ぴょう性をあげていく。</li> <li>・欠席率0.83人(前期)など、去年より評価が落ちているところがある。なぜ落ちたのか分析し改善計画に入れる必要がある。</li> <li>・障がいを持っている人が入学するとは具体的にどのような人なのか。 →発達障害で手帳を持っている人がいる。本人が相談してきたときに対応できるようにする必要がある。グレーゾーンの学生もいるが、それぞれに対応していくしかない。</li> <li>・介護福祉学科のA組とB組の評価に差があり、A組(日本人のクラス)のほうが評価が低い。 →遅刻する学生のほとんどが通信制の高校を卒業した学生で、SHRに間に合うように来るという意識が薄い。 →学校側と学生の認識の違いを埋めなければ目標達成は難しい。</li> </ul>

No	議 題	内 容(決定事項)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床工学科の卒業試験のライン引きはよくできている。</li> <li>→合格率 100%にならなかったのは卒業試験でぎりぎり卒業させた学生が、国家試験までの 1 か月で伸びなかったため。</li> <li>・事業者側も介護福祉士や介護の魅力を発信していかなければならない。</li> </ul>
5	学校関係者評価シートへの記入・提出	各項目について、その場で評価、理由、意見をご記入いただいた。
	<p>貴重なご意見をいただいた。 2024 年度改善計画を速やかに作成し、4 月からの 1 年間、実施していく。</p>	

## 2023 年度 学校関係者評価

<各項目の評価>

評価項目	委員の 評価平均	理由・意見 →意見に対する学校の考えや改善方策
0 重点目標の設定や改善方策は適切か	3.6	・SHR にもとづき細かな対応を行っていることはよい取り組みである。
1 教育理念・目標の評価や改善策は適切か	3.8	・具体的な改善の様子が分かった。
2 学校運営の評価や改善策は適切か	3.6	・アンケートの周知方法や集計に一工夫あるとよい。 →今年度初めてアプリを利用したアンケートを実施した。利用方法の周知が徹底できていなかったのも次年度はしっかりと周知のための準備を行いたい。
3 教育活動の評価や改善策は適切か	3.4	・授業評価がどのようにされたか 10 月の委員会で確認したい。
4 学修成果・教育成果の評価や改善策は適切か	3.4	・特になし。
5 学生支援の評価や改善策は適切か	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある方への具体的な合理的配慮内容を確認したい。 →4 月に障害学生への支援体制を整えた。次回 10 月の会議で説明する。</li> <li>・1 年次の退学率改善が必要。 →学校全体で組織的に対応する。また 4 月からスクールカウンセラーにきていただき専門的な立場から学生、保証人（保護者）、教職員の相談にのっていただく。</li> <li>・改善方策をもっと具体的に。 →「検討する」という文言が多いため具体的方策が示せるようにする。</li> <li>・5-3-1 の自己評価が下がった原因は？ →学生相談に関する体制について、担任を窓口とした相談体制を整えているが、障害のある学生に対する体制は整っていないため。合理的配慮の提供の義務化に伴</li> </ul>

評価項目	委員の 評価平均	理由・意見 →意見に対する学校の考えや改善方策
		い体制を整えていく。
6 教育環境の評価や改善策は適切か	3.8	・特になし。
7 学生の受入れ募集の評価や改善策は適切か	3.4	・年々入学者が減っているところへの新たな体制が必要か？→現状把握、外部環境の分析を行い新たな体制が必要か検討する。 ・SNSの利用は？→LINE や Instagram を利用した情報発信を行っている。
8 教育の内部質保証システムの評価や改善策は適切か	3.6	・評価項目 8-4-3 の自己点検・評価の結果に基づいた改善計画は早急に策定すべき。 →改善計画書を作成する。 ・できていない項目は厳しく自己評価できている。
9 財務の評価や改善策は適切か	4.0	・特になし。
10 社会貢献・地域貢献の評価や改善策は適切か	4.0	・特になし。
11 国際交流の評価や改善策は適切か	4.0	・特になし。
<p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価表の完成が遅い。学校関係者評価委員会は年度内に開くべきでは。 →年度内に実施できるよう、可能な限りスケジュールを早めていく。</li> <li>・全体的に改善方策について「～を検討する」「～に努める」という表現が多い。 →どのような改善方策を行うのか明確にし、それを確実に実施する。</li> </ul>		

<評価基準>

評価	基準
4	適切である。
3	ほぼ適切である。
2	やや不適切である。
1	不適切である。